

電波利用環境委員会報告(案)概要

～CISPRサンフランシスコ会議の審議結果について～

令和5年1月10日
電波利用環境委員会
CISPR A作業班

主な審議状況及び対応方針(A小委員会)

A小委員会：妨害波測定装置や妨害波測定法の基本規格を策定

30MHz以下の周波数帯における放射妨害波測定

1) 背景と課題

近年の無線設備の多様化により、新たな電波利用がされ始めた30MHz以下の周波数帯において、放射妨害波*の発生による無線設備の受信障害問題が生じている。 ※
機器からの妨害波には、放射妨害波(空間に放射されるノイズ)と伝導妨害波(ケーブルを伝わるノイズ)がある。
30MHz以下の周波数については、現行の国際規格で規定されているのは伝導妨害波のレベルのみ。

2) 課題の解決方法

新しい製品からの放射妨害波のレベルを規制することで受信障害問題を解決し、無線局との共存を図る。
具体的には、以下の内容について規格化し問題解決を目指す。

- ・放射妨害波の測定方法と許容値
- ・測定を行う試験場の条件(特性評価法)
- ・測定に用いるループアンテナの校正法

3) 審議結果

CISPR 16-1-4：放射妨害波測定用補助装置についてのCDV(投票用委員会原案)は可決し、FDIS発行予定。VHF-LISNの仕様のCISPR 16-1-4への追加(第5版)に関しては、他の事項のCDV案の作成を待って発行予定。

CISPR 16-1-6：ループアンテナ校正法については、2022年3月に国際規格発行。

CISPR 16-2-3：30 MHz以下の妨害波測定法及び関連する不確かさに関して、CDVは可決、FDISステージに進む。JAHG6で検討しているケーブル終端及びケーブル配置の明確化について、Ed 5.0(Fragment 1及び2)ドラフトCD作成に進む。

4) 今後の見通し

CISPR 16-1-4：FDIS回付予定。VHF-LISN仕様に関してはCDV発行予定。

CISPR 16-1-6：IS発行済み

CISPR 16-2-3：FDIS回付予定。ケーブル終端及びケーブル配置の明確化についてはCD作成に向け進行中。



検討中の規格

